

「道の駅」と大学の連携について

- 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の就労体験や交流の場として活用。
- 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図る。
- 道の駅と大学のニーズに応じ、「連携企画型」と「就労体験型」の2種類の形で実施

実施イメージ



これまでの実施例

<連携企画型>

- 京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅
- ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン



包装デザイン打合せ

- 「かなん」(大阪府河南町)
- ・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発



道の駅弁当「かなん冬の恵み」

<就労体験型>

- 「霧の森」(愛媛県四国中央市)

- ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。
- ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加

- ・H15からこれまで約110名が実施
- ・そのうち2名が「道の駅」へ就職



大学生が企画したイベント



地元名産品「霧の森大福」

項目	連携企画型	就労体験型
概要	「道の駅」側と大学側でお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を行うもの	「道の駅」の運営業務において、若者の視点、感性やITスキル等を通して新たな行動や発見を期待するもの
内容例	地域巡りツアー企画、商品開発、売場改善 等	イベントの企画・運営、新しい観光資源の発掘 農作業の体験、地元産品を使った商品開発 物産販売の補助、HP等による情報発信の提案・実施 等
期間	通年の授業の中での通いを想定	概ね2週間以上の長期宿泊型を想定 (夏期休暇期間活用)
受入学生	道の駅近傍の大学を想定	全国の大学を想定
受入人数	ゼミ単位(少人数～10名程度のグループを想定)	数名

<連携企画型の事例> ※道の駅ではない事例も含む

○ 観光

- ・地域巡りガイド(跡見学園女子大学)
- ・日帰り観光プラン作成(和歌山大学)

○ 商品開発

- ・地元伝統野菜を活用した道の駅弁当(大阪府立大学)
- ・地場産品を活用したお土産品開発(弘前大学)

○ まちづくり・地域活性化

- ・キャンプ場を起点とした地域活性化(和歌山大学)
- ・ご当地キャラクターの発案・活用(大妻女子大学)



地域巡りガイドの様子

出典)各大学ホームページ参照

<就労体験型の実施スケジュール(イメージ)>

